

## これまでの フォーラムの活動内容

フォーラムではNGOと労働組合の連携促進や組合員を含めた一般市民の意識啓発を目的に、これまで次のような活動を行ってきました。



くず拾いをするストリートチルドレン(ネパール)  
写真提供(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会

### これまで行ってきた主な活動

#### 1.公開シンポジウム、イベント、学習会の開催

- ・フォーラム発足記念シンポジウム開催(2004年7月)
- ・公開シンポジウム「日本の途上国援助と国連ミレニアム開発目標」開催(2005年7月)
- ・GCAP国際シンポジウム「貧困撲滅と労働組合」開催(2005年10月)
- ・児童労働反対世界デー・キャンペーン トーク&ムービー開催(2006年~2008年6月)
- ・NGO—労働組合交流学習会の開催(テーマ:児童労働ワークショップ、ICFTU世界大会の報告、エイズワークショップ、教育、MDGsなど)
- ・NGO—労働組合連携事例報告会の開催
- ・各産別・単組の求めに応じた講師派遣を随時実施
- ・メーデーへのブース出展、写真展の開催など

#### 2.スタディツアーの実施

労働組合員を対象にカンボジアスタディツアーを実施し、現地で活動する日本のNGO等を訪問。(2005年と2006年に2回実施)



約400名が参加した  
児童労働反対世界デーイベント

#### 3.冊子の発行

「職場とHIV／エイズ」  
(2005年、HIV／エイズ等感染症グループ)

「児童労働一問一答 労働組合ができること」  
(2006年、児童労働グループ)

「MDGs:我々にできることは何か  
MDGsの視点、課題、可能性をさぐる」  
(2006年、MDGs啓発・提言グループ)

## フォーラム参加団体一覧

(2011年2月現在、順不同)

### 労働組合

NTT労働組合中央本部

基幹労連

国公連合

JR総連

自治労

自動車総連

JAM

電機連合

日教組

UIゼンセン同盟

国際食品労連日本加盟労組連絡協議会(IUF-JCC)

日本化学エネルギー鉱山労協(ICEM-JAF)

連合

### 参加NGO

(財)ダイバーシティ研究所

(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

(財)民際センター

※認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

### フォーラム事務局

**NGO側事務局**:(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)

〒169-0051 新宿区西早稲田2-3-18 アバコビル5F

tel:03-5292-2911、fax:03-5292-2912

E-mail:global-citizen@janic.org

**労働組合側事務局**:日本労働組合総連合会(連合)総合国際局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

tel:03-5295-0526、fax:03-5295-0548

E-mail:jtuc-kokusai@sv.rengo-net.or.jp

表紙写真提供:公益財団法人シャンティ国際ボランティア会(瀬戸正夫撮影)、(財)国際労働財団、(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会

### 運営NGO

(特活)アフリカ日本協議会

(社)アムネスティ・インターナショナル日本

(特活)ACE\*

(特活)エファジャパン

オルタモンド

国際連帯税を推進する市民の会(アシスト)

(財)国際労働財団

(特活)シェア=国際保健協力市民の会\*

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

(財)ジョイセフ

(特活)難民を助ける会\*

(特活)日本国際ボランティアセンター\*

(特活)BHNテレコム支援協議会\*

(特活)国際協力NGOセンター

(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン\*

(特活)ヒューマンライツ・ナウ



# NGO — 労働組合 国際協働フォーラム

地球社会のために  
NGOと労働組合が協働します

## NGO—労働組合 国際協働フォーラムとは



ネパールでの授業風景  
(財)国際労働財団 活動写真

### フォーラムの目的

国際協力NGOが貧困、人権、平和、環境など地球規模の問題に積極的に取り組む一方で、労働組合も労働運動の一環として国際的な社会貢献活動に力を注いできました。NGOと労働組合は共通の課題も多く抱えており、例えば児童労働やHIV／エイズ等の分野では、それぞれが国際的にも重要な役割を果たすようになっています。

本フォーラムは、NGOと労働組合が協働事業を促進することにより、貧困、人権、平和、環境などの地球規模課題の解決に寄与し、公正ですべての人々の可能性を開くことができるグローバル社会の形成と市民社会の強化を目的としています。

### NGOと労働組合が協働するメリット

国内の幅広いネットワークを持つ労働組合と、草の根の活動実績を持つNGOが、それぞれの特徴を生かしあい、専門性、資金、人材等を相互活用し協働することで、地球規模課題の解決へより効果的に取り組むことができます。

### フォーラム設立の背景

これまでもNGOと労働組合は、社会開発と国際連帯という共通の目標に向かって、人材、資金、技術を互いに補完しあうかたちで協力関係を築いてきました。2003年5月から開始した「NGO—労働組合共同学習会」ではさらに相互理解を深め、情報交換と交流をはかってきました。そして2004年9月1日に、NGOと労働組合の連携を組織化して国際協力活動を行い、貧困削減、初等教育の普及、ジェンダーの平等、乳幼児および妊産婦保健の向上、HIV／エイズなどの防止等の到達目標である「国連ミレニアム開発目標(MDGs)」の達成を実現するために、本フォーラムが設立されました。



東ティモール・下痢時の水分補給を学ぶ子どもたち  
(特活)シェア=国際保健協力市民の会 活動写真

# なぜ働く 世界の子どもたち

## 児童労働問題へのとりくみ



児童労働反対ウォークの様子

### なぜ、とりくむのか

児童労働は、子どもたちが教育を受け健やかに育つ権利を奪う重大な人権侵害です。また大人に代わる安価な労働力として子どもが使われれば、大人の雇用や労働条件にも影響を与えます。両親がディーセントワーク(人間尊重の仕事)を得て、基本的人権が保障された生活を送ることができることが、子どもの権利の侵害を防ぐことになるのです。

児童労働は働く私たちがまず考えなければならぬ問題であり、労働組合とNGOが協力することにより、問題解決に向けた貢献ができるものと考えます。

ブックレット「児童労働一問一答」



### どんなことをしているのか

グローバル化した経済の中で、価格競争に勝ち抜くために人件費を切り詰めることが、児童労働がなくなる一つの大きな原因だと言われています。一方でグローバリゼーションはインターネットなどIT技術の普及も促進し、さまざまな情報が国境を越えて届くようにもなりました。今世界中の子どもたちの身に何が起きているのかを知ることが、次への行動へのステップとなります。

本フォーラムでは、児童労働に関して広くみなさまに知ってもらうために、下記のような活動を行ってきました。

1. メーデー、児童労働反対世界デー(6/12)などのイベントを通じた広報・啓発活動。
2. 児童労働についてのセミナーの実施、講師の派遣
3. 児童労働写真展の実施

児童労働に関するブックレット「児童労働一問一答」を作成しました。これは児童労働に関するさまざまな疑問について知っていただくための解説書です。

また講師派遣も行っておりますので、詳細は事務局までお問い合わせください。

## HIV／エイズは 働く私たちみんなの問題

### HIV／エイズ等感染症へのとりくみ



冊子「働く HIV ポジティブ」

### HIV／エイズの現状

世界では、3大感染症と言われるHIV／エイズ、結核、マラリアなどの病気によって、多くの人々が健康を害し、また命を落としています。

その中でも、HIV／エイズは世界で3300万人(国連合同エイズ計画、2008年)もの人々が感染しており、特にサハラ砂漠以南のアフリカでは、地域全体で成人の20人に1人、国によっては5人に1人が感染して、地域社会に深刻な影響が出ています。

私たちにあって、エイズは遠い国のことと思われがちですが、実は日本は先進国の中でHIV陽性者が増えつつある数少ない国という事実を知っている人は、あまり多くありません。また、HIV陽性者は、病気そのものに加えて、差別や偏見に苦しんでいます。

HIV／エイズは、労働組合にとっても取り組むべきテーマのひとつで、労働組合の国際的ネットワークである「グローバルユニオン」を初めとして、各国のナショナルセンター・産別等で取り組まれています。

職場の仲間がHIV感染を理由に配置転換や解雇などの不当な差別を受けないように、またあらゆる病気の人々が安心して働ける職場を作りたい、それが私たちの願いです。

中央メーデーでの啓発活動

### どんなことをしているのか

HIV／エイズ等感染症グループでは、労働組合員を中心とした市民に、ゲームやロールプレイを利用してHIV／エイズ等感染症の基本的な知識を伝え、職場における差別・偏見を軽減するための取り組みを行っています。

- ・冊子「働くHIVポジティブ-職場とHIV／エイズ」の作成・配布
- ・組合員及び一般市民対象のエイズワークショップの実施(HIV陽性者のスピーチ、模擬交渉交渉、水の交換、手記の読み合わせなど)
- ・中央メーデー会場などでエイズ啓発活動
- ・エイズ写真展、エイズポスター展

産別や単組での研修会等に、ぜひ声をおかけください!

(連絡先:forum.aids@jilaf.or.jp)



## 世界のお母さんと 赤ちゃんの命を救おう!

### 母子保健へのとりくみ

### なぜ、とりくむのか

ミレニアム開発目標(MDGs)の中で、MDG5の妊産婦保健改善への取り組みが国際的に最も遅れています。世界で妊娠や出産が原因で、年間54万人の女性が命を落としています。その99パーセントは途上国の女性です。その数は1分に1人。過去20年間、この数値はほとんど変わっていません。その結果、年間70万人のストリートチルドレンが発生しています。命が助かって、年間2000万人の女性が疾病に苦しんでいます。これらの妊産婦の命を救うことで、年間350万人の新生児の命も救えます。この課題への取り組みは、国際社会に課された責務と考えています。



写真家・内堀たけし氏の進行で  
母子保健フォトディスカッションが行われる。

### 妊産婦死亡率、乳児死亡率の国別比較

	日本	アフガニスタン	タンザニア
妊産婦死亡率 (出生10万対)	4.9	1,800 (日本の367倍)	950 (日本の194倍)
乳児死亡率 (出生1000対)	2.6	156	71

途上国:世界人口白書(2008)より  
日本:母子保健の主なる統計(2007)より

### どんなことをしているのか

母子保健グループでは、国際的な妊産婦保健の現状を一人でも多くの人に知ってもらうことが大切だと考え、以下の活動を行ってきました。

1. 世界の妊産婦・乳児保健に関する勉強会
2. 途上国の現状を知ってもらうための写真展の開催
3. フェアートレードコーヒーで妊産婦保健を支援するキャンペーン活動
4. WHO本部・妊産婦新生児保健対策部長の講演会と意見交換会の開催

母子保健グループのテーマである妊産婦新生児保健は、保健医療分野だけで解決はできません。このテーマの特色は、女性の社会的地位の低さ、ジェンダー、女性の基礎教育、貧困、感染症などが複合的に関連しています。それが妊婦保健の進捗の遅れの大きな原因になっています。一方、妊産婦保健を改善することで乳児死亡も確実に減る関連性があります。妊娠と出産は、女性が命を落とすリスクが最も高いときです。途上国の母と子の健康と命を守る継続的支援を行いたいと考えています。

### 運営形態について

本フォーラムは、NGOと労働組合によって構成されています。本フォーラムの活動は、NGOと労働組合双方の互選による合同企画委員会の運営のもと、課題別グループおよび事業別タスクチームに分かれて活動を実施しています。課題別グループおよび事業別タスクチームへは、NGOと労働組合の双方が参加し、互いに協力しながら活動を進めています。現在、児童労働グループ、HIV／エイズ等感染症グループ、母子保健グループが課題別グループとして継続的に活動を行っており、イベントや報告会は、事業別タスクチームに分かれて期限付き実行委員会形式で活動をしています。

### ご参加ください

本フォーラムへの参加を希望するNGO/労働組合は、お気軽に事務局へお問い合わせください。なお、NGOには「運営NGO」と「参加NGO」の2通りの参加方法があり、まずは簡単に参加できる「参加NGO」として、問題意識に合ったグループやタスクチームでの活動を始めることも可能です。また、本フォーラムが開催するイベント・学習会等へのご参加の問い合わせも、随時お受けしております。

